

授業改善推進プラン <1年社会科>

1 社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・1学年のため昨年度の検証はなし。
- ・授業への取り組みは意欲的で挙手や発表する生徒が多く、集中して取り組んでいる。一方で苦手意識をもっている生徒も多い。そのため、ICT機器の活用を日常的に行い、関心・意欲を高める発問を繰り返し生徒に考えさせることで、学習内容の理解に繋げている。また、可能な限り話し合い活動を取り入れ、主体的に学習に取り組む姿勢を育む授業を目指している。

2 社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>34問中、内容別で目標値を達成している項目が半分以上あり、概ね小学校段階の学習が定着している。</p> <p>マイナス5ポイント以上低い領域は、「天皇中心の国づくり」の聖徳太子の政策と法隆寺の資料についての読み取りの2問であった。課題としては、活用力の伸張である。また、問題文の主旨を理解し何が問われているかをより正確に把握する力を育むことである。</p>
観点別結果の分析	<p>目標値と比較して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能は4.3ポイント上回っている。(全国平均比+2.9) ・思考・判断・表現は6.1ポイント上回っている。(全国平均比+3.0) ・主体的に学習に取り組む態度は4.4ポイント上回っている。(全国平均比+4.5)

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 知識・技能に関しては、小テストの実施や授業の振り返りを行えるノート作りに取り組むことで、基本的な知識の定着を図る。また、ICT機器を活用しつつ資料読み取りの技術や方法を確実に習得させる。
- 2 思考・判断・表現に関しては、ホワイトボードを利用してグループ活動やペアワークを行い、言語活動の活性化を図る。発表活動や文章でまとめる活動を充実させることで、思考力・判断力・表現力の向上を図る。
- 3 主体的に学習に取り組む態度に関しては、導入で学習課題を提示し、学び合い活動の工夫を行うことで「気付き」のある授業を行う。また、授業の最後に必ず振り返りをし、ねらいの確認をする場を設けることで主体的に取り組む態度の向上を図る。

授業改善推進プラン <2年社会科>

1 社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

【取り組み】

- ・ 苦手意識をもっている生徒が多いため、地理的分野、歴史的分野ともにICTを利用して興味をもてるような発問を繰り返し生徒に考えさせることで学習内容の理解に繋げた。また可能な限り話し合い活動を取り入れ、明るい雰囲気の中で授業を展開することに留意した。
- ・ 1年次の3学期より基礎基本用語の定着を狙い一問一答形式のドリル練習を取り入れた。

【成果】

- ・ 苦手意識をだいぶ取り除くことができきていて、各クラス2～3割の生徒が「好きな教科・得意な教科」として社会を挙げられるようになった。

【課題】

- ・ 休校期間等による3ヶ月遅れを取り戻すのに苦労している。興味をもたせ印象に残る丁寧な授業を毎回心がけているが、授業レベルを落とさずに授業内容を消化していくことに更なる工夫が必要である。

2 社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>○学習した内容は目標値を大きく超えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地球の姿をとらえる」(目標値比+15.4ポイント) ・「世界の人々の生活と環境」(目標値比+7.2ポイント) ・「世界の諸地域」(目標値比+3.3ポイント) ・「縄文時代～飛鳥時代」(目標値比+21.8ポイント) <p>○まだ学習をしていない内容は目標値を下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「飛鳥時代～平安時代」(目標値比-1.9ポイント) ・「中世の日本」(目標値比-12.5ポイント) ・「日本の地域構成」(目標値比-12.8ポイント) <p>まだ学習をしていない内容は結果が悪く、その要因の進捗については小学校6年次3月～中学校1年次6月までの休校、分散登校が進捗に大きく影響している。急に進捗をあげるのではなく、3年間で計画的にかつ効率よく学習内容を定着させていく。ただし、内容別では学習済みの内容はすべての項目で目標値を達成しているので概ね学習習得が順調に定着していると言える。従って昨年度からの取り組みは継続していく。</p>
観点別結果の分析	<p>目標値と比較して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会的事象への関心・意欲・態度」は4.2ポイント上回っている。(昨年度+1.7) ・「社会的な思考・判断・表現」は6.8ポイント上回っている。(昨年度+3.7) ・「資料活用の技能」は8.8ポイント上回っている。(昨年度+4.6) ・「社会的事象についての知識・理解」は2.3ポイント上回っている。(昨年度+0.7)

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>基本的な知識の定着を図ために基本用語ドリルを充実させていく。ICTを活用しながら、資料の読み取り方を確実に習得させる。</p>	<p>ペアワークなどによる問題解決能力の育成、また、発表活動や文章でまとめる活動を充実させる。自分でまとめる力を伸ばすノート作りを啓発していく。</p>	<p>導入展開の工夫や興味関心をもたせる学習課題の設定を行う。ICTの活用する。更にチャレンジテストを実施して何度でも頑張れる体制作りをする。</p>

授業改善推進プラン <3年社会科>

1 社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

<p>取り組みにおける成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本地理（日本の気候区分と日本の農業）と歴史（楽市楽座の影響、株仲間など）の選択形式の6問と高冷地農業についての記述解解答形式1問は、目標値を10ポイント以上上回り、前年度の校内正答率も上回っているのが成果である。 • 世界の国々の人口、面積、人口密度をグラフから読み取り考える選択解答形式と、世界と日本の米の生産についての問題は、いずれも目標値、前年度の校内正答率を10ポイント以上下回っているのが課題である。
--

2 社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> • 「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」と「江戸時代」は、校内平均正答率が区平均正答率を上回っており、「世界と比べた日本の地域的特色」、「日本の諸地域」、「身近な地域の調査」、「明治時代」は、校内平均正答率が区平均正答率を下回っている。
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> • 4 観点とも目標値を上回っている。区平均正答率と比べると、「関心・意欲・態度」が0.4ポイント上回り、「思考・判断・表現」が55.5%で同率、「資料活用の技能」が1.1ポイント、「知識・理解」が0.5ポイントそれぞれ区平均正答率を下回っている。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習取り組む態度
<p>小テストやコンテストの実施や授業まとめの振り返りを行うことで、基本的な知識の定着を図る。</p> <p>黒板に拡大した資料をはり、資料の読み取り方や地図の見方を習得させる</p>	<p>授業内での発表活動やワークシートを活用した文章でまとめる活動を充実させ自分の考えをまとめ、記述する力を育成する。</p>	<p>付箋を活用した授業を行い、生徒の興味関心をもたせる学習課題の設定を行う。</p> <p>授業では、プリントで進める学習を進化させ、ノートを含めた提出回数を増やす。</p>